

こども大綱の案の具体化に当たり、こども・若者や子育て当事者等から聴いた意見を真摯に受け止めるとともに、既存3大綱の進捗と成果を踏まえつつ、本報告に示した考え方及び第1次報告書に記載された具体的施策の実現に向け最大限の努力を求める。

## これまでの検討の経緯

R4.6  
こども基本法 成立  
(こども大綱策定に関し規定)

R4.9  
こども政策の推進に係る有識者会議

R4.9～R5.1  
幅広い当事者・関係者から意見聴取



関係団体・有識者  
との対話



大臣による児童館・  
児童養護施設等訪問



## こども大綱の役割

- 既存の少子化社会対策大綱、子供・若者育成支援推進大綱、子供の貧困対策に関する大綱を一元化し、さらに必要な施策を盛り込む。
- 政府を挙げて取り組むべきこども・若者に関する施策、少子化の克服、こどもの貧困に関する施策を幅広く対象。
- こども大綱で、常にこども・若者の最善の利益を第一に考え、こども・若者に関する取組・政策を社会の真ん中に据えた「こどもまんなか社会」を実現。
- 家庭を持つことや、こどもを産むことや育てることの喜び・楽しさを実感できることで、少子化の克服やこども・若者のより良い成長を実現。

## こどもまんなかフォーラム等から得られた気づきや示唆

※得られた意見等については別紙参照

- ① こども・若者の意見表明や参画に関連する事項
- ② こどもや若者の健やかな成長に関連する事項
- ③ 困難な状況にあるこどもや若者、家庭への支援に関連する事項
- ④ 結婚、妊娠・出産、子育てに関連する事項
- ⑤ こども・若者の周囲にいる大人に対する支援に関連する事項
- ⑥ 関係省庁・地方自治体・民間団体等の連携に関連する事項

# こども施策の立案・実施に当たって 踏まえるべき基本的な共通事項

## 1 こども・若者、結婚・子育てを希望する方や子育て当事者の視点に 立って考えること

- ▶こども・若者が、社会や保護者の支えを受けながら、意見表明と自己決定の主体、いわば権利の主体として尊重されること
- ▶声をあげにくいこども・若者への十分な配慮
- ▶こども・若者の意見を施策に反映し、フィードバック、社会に発信

## 2 こどもや若者のライフステージに応じて切れ目なく対応していくこと

- ▶ライフスタイルによらず、将来の展望を描ける環境整備
- ▶乳幼児期から大人になるまで社会全体で支える

## 3 全てのこども・若者への対応を基本としつつ、こどもや若者の現在と将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないようにすること

- ▶全てのこども・若者の幸福（Well-being）向上（居場所・学び・外遊び等）
- ▶全国どこでも必要な支援が受けられる環境整備
- ▶こども・若者が抱える困難に対する重層的アプローチ

## 4 結婚や子育てに希望を持つことができ、その希望を叶えるようにすること

- ▶子育てに夢と喜びを感じることのできる社会づくり
- ▶結婚や子育てに希望を持てるようにし、その希望を叶える（価値観を押し付けない・プレッシャーを与えない）

## 5 施策の総合性を確保するとともに、関係省庁、地方自治体、民間団体等との連携を重視すること

- ▶国が地方自治体と密接に連携、視点を共有しながら施策を推進
- ▶地域の支援団体や若者団体などの共助を行政が支える
- ▶こども・若者に関する国内施策の推進、国際的な取組への貢献

# こども施策を進めるに 当たっての基本姿勢

## 1 こどもや若者の人格・個性を尊重する基本認識の共有

- ▶人格・個性・多様性が尊重され、主体的に、尊厳を持ち、幸福に暮らす
- ▶属性等により差別的な取扱いを受けない。こども・若者の可能性を広げる
- ▶こども基本法や児童の権利条約を社会全体に共有

## 2 こども・若者のライフステージに応じた切れ目ない施策の確保

- ▶成育過程において、関係機関等が連携し保健・療育・福祉・教育を提供
- ▶学校等の場をプラットフォームとして、相互に協力

## 3 若者、結婚・子育てを希望する方や子育て当事者が結婚や子育てに希望を持つことができ、その希望をかなえられる環境の整備

- ▶結婚、妊娠・出産、子育てのライフステージに応じた切れ目ない支援の推進
- ▶地域の実情に応じたきめ細かな取組や、全ライフステージにわたる雇用環境等の整備・働き方改革を進める

## 4 こども・若者に関わる大人への重層的な支援の確保

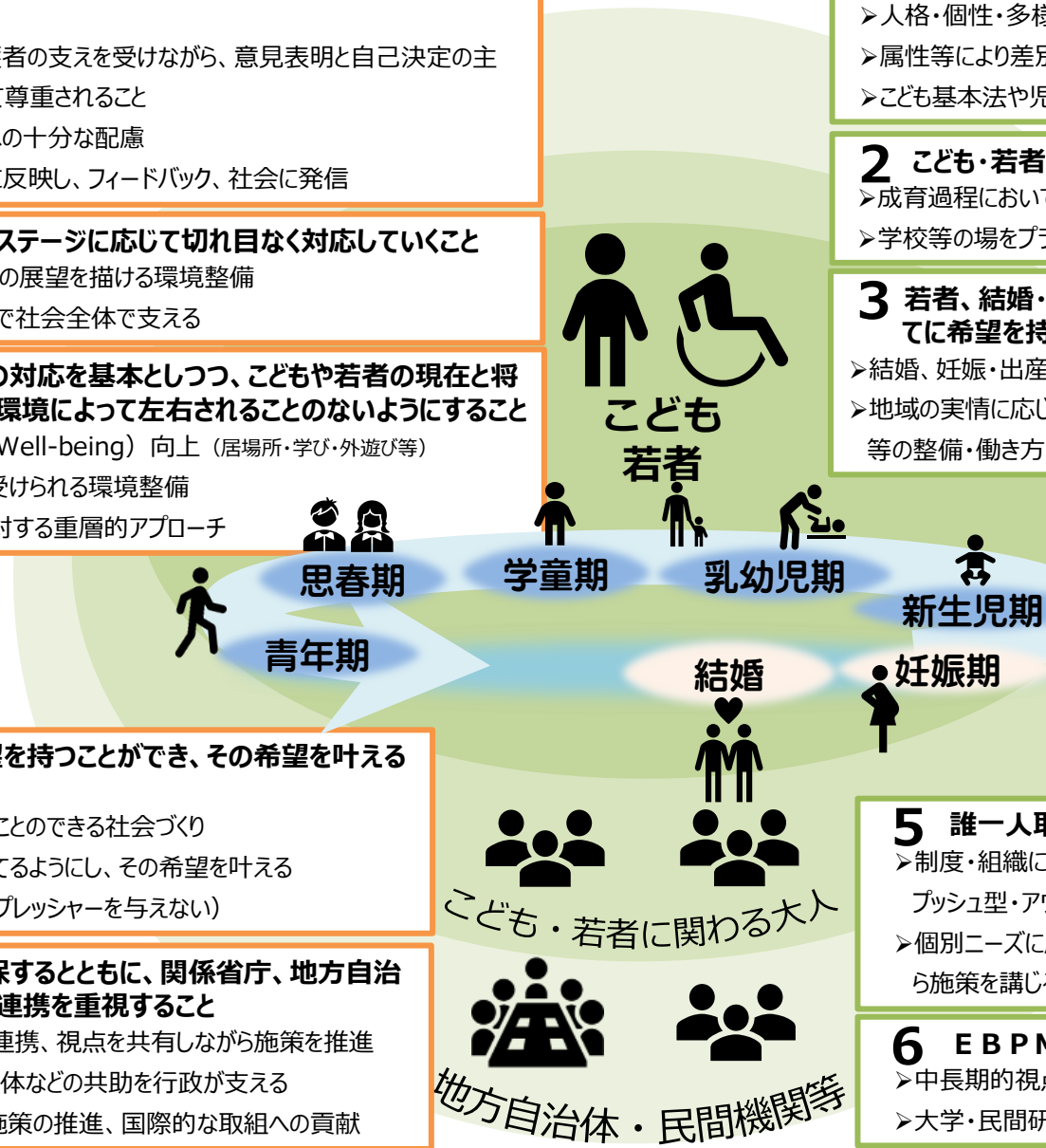
- ▶保護者が自己肯定感を持ち、幸せにこどもと向き合える環境を整える
- ▶支援者が喜び・幸せ・充実を感じ、安心したキャリアパスを描ける環境を整える、多様な人材確保・育成

## 5 誰一人取り残さず、確実に届ける支援の充実

- ▶制度・組織による縦割りの壁、18歳や20歳などの年齢の壁を克服した、プッシュ型・アウトリーチ型支援
- ▶個別ニーズに応じたきめ細かい支援及びインクルージョン推進の観点から施策を講じることが重要

## 6 EBPMの推進

- ▶中長期的視点に立ったPDCAサイクル構築、効果の点検・評価・公表
- ▶大学・民間研究機関等と連携した、包括的な観点での調査研究



## ①こども・若者の意見表明や参画に関連する事項

- ◆ こども・若者自ら意見表明と自己決定の主体と認識でき、それについて学ぶ機会や権利を行使できる機会が必要（小学生～20代、若者団体、健やかな成長に向け取り組む団体）
- ◆ こども・若者が自己決定権を持ち自立することが重要（経済界・労働界）
- ◆ 脆弱な立場のこども・若者の意見を聴くことを保障し、周りの大人が表情・態度等から丁寧に聴き取る（健やかな成長に向け取り組む団体） 等

## ②こども・若者の健やかな成長に関連する事項

- ◆ 学校教育において、得意なことを活かす学習や多様な学習の機会を充実してほしい（小学生～20代）
- ◆ 人間関係が希薄化し、同調圧力等への不安感がある。学校や家庭以外の居場所が欲しい（小学生～20代）
- ◆ 公園の遊具が減少し、天候に関わらず遊べる場を増やしてほしい（小・中学生）／主体的に遊び自分で自分を育てられる環境作りが必要（健やかな成長に向け取り組む団体）
- ◆ 中高生から企業・社会を知りたい（小学生～高校生） 等

## ③困難な状況にあるこどもや若者、家庭への支援に関連する事項

- ◆ 生まれ育った環境で将来が左右されない社会にしてほしい（小学生～20代）／奨学金の返済等への不安、若者の貧困に目を向けて欲しい（高校生・20代）
- ◆ 様々な状況に置かれたこども・若者や家庭に対する理解を深めてほしい（小学生～20代、様々な困難を抱えるこどもの支援団体）
- ◆ 行政窓口の周知改善（小学生～20代） 等

## ④結婚、妊娠・出産、子育てに関連する事項

- ◆ 妊娠・出産に対する孤独感、子育てとキャリアの両立の困難さ、雇用環境や就労環境の不安定さ、経済的不安等による将来への不安（小学生～20代）
- ◆ 子育て孤立を防ぐため社会と繋がりを得られるようにする（若者団体、子育て支援団体）／仕事・子育て両立の職場づくり等が必要（労働界）
- ◆ 父親の相談場所が少ない（子育て支援団体）／家事・子育て重視の男性が当前に活躍する就業環境・企業風土の醸成が必要（人口減少・持続可能な経済社会に係る有識者）等

## ⑤こども・若者の周囲にいる大人に対する支援に関連する事項

- ◆ 家族、学校、地域においてこども・若者と関わる大人がこども・若者の権利を認識・理解してほしい（小学生～20代、若者団体）／大人がこども・若者の権利を理解することが大切（子育て支援団体、様々な困難を抱えるこどもの支援団体）
- ◆ 教職員や保育士、児童相談所職員等の待遇改善や負担軽減、心身のケアが必要（小学生～大学生） 等

## ⑥関係省庁・地方自治体・民間団体等の連携に関連する事項

- ◆ こども家庭庁がこども施策の企画立案・総合調整に係る意思決定へのリーダーシップの発揮を期待（若者団体）／行政機関間の壁の打破、複数省庁の取組の横串の視点等の期待（経済界）
- ◆ 若者の声を行政に届ける手法を増やしてほしい（20代）／地方自治体の子育て当事者の声を聴き取り計画に反映してほしい（子育て支援団体）
- ◆ こども施策のデジタル化推進希望（若者団体、経済界）等

# (参考) こども政策の推進に係る有識者会議 第2次報告書 取りまとめの検討状況

## 第6回 (令和4年9月13日)

- ・ こども大綱の策定に向けた検討の進め方
- ・ 現在の3大綱に係る構成員報告 (少子化大綱・子若大綱)

## 幅広い当事者・関係者から意見聴取

こどもまんなかフォーラム  
(全6回)

関係団体・有識者との対話  
(全3回)

大臣による視察・意見交換  
(児童館・児童養護施設等)

こども・若者 (内閣府ユース  
政策モニター) から意見募集

子育てに関する  
こども・若者 (内閣府ユース  
政策モニター) との意見交換

## 第7回 (令和5年2月15日)

- ・ 現在の3大綱に係る構成員報告 (子貧困大綱)
- ・ こどもまんなかフォーラム等の報告
- ・ 第2次報告書骨子案

## 第8回 (令和5年3月15日)

- ・ 第2次報告書取りまとめに向けた議論

カテゴリ	実施回	テーマ等	実施日
こどもまんなかフォーラム	第1回	こども・若者(小学校高学年・中学生)	令和4年9月22日
	第2回	こども・若者(高校生・大学生・20代の若者)	令和4年10月28日
	第3回	若者団体等	令和4年12月14日
	第4回	子育て当事者・子育て支援団体等	令和4年12月23日
	第5回	様々な困難を抱えるこどもを支援する団体	令和5年1月25日
	第6回	こどもの健やかな成長に向けて取り組む団体	令和5年1月27日
関係団体・有識者との対話	第1回	人口減少・持続可能な経済社会	令和4年11月21日
	第2回	経済界・労働界	令和4年12月9日
	第3回	財政・社会保障	令和4年12月13日

カテゴリ	視察先・意見交換テーマ等	実施日
視察	認定こども園(神奈川県横浜市)	令和4年8月31日
	子育て広場(東京都世田谷区)	令和4年9月1日
	児童相談所(東京都世田谷区)	
	児童発達支援センター(東京都港区)	令和4年9月21日
	居場所を兼ねた学習支援事業(東京都足立区)	令和4年9月29日
	母子保健センター(東京都港区)	令和4年10月4日
	児童館(東京都町田市)	令和4年10月23日
	こどもセンター(神奈川県鎌倉市)	令和4年11月5日
	児童養護施設(大阪府)	令和4年12月17日
	公営住宅を活用した若者向けシェアハウス(大阪府)	
	大阪府箕面市	
	大阪府門真市	
	スマルナステーション(大阪府大阪市)	
	渋谷区子育てネウボラ	令和4年12月26日
埼玉県戸田市	令和5年1月19日	
意見交換	子ども・子育て支援関係団体との意見交換(第1回)	令和4年9月14日
	子ども・子育て支援関係団体との意見交換(第2回)	令和4年9月21日
	ベビーテック企業との意見交換	令和4年9月26日
	経済的困難を抱える家庭の子どもたちの支援者との車座	令和4年10月11日

## (参考) こども政策の推進に係る有識者会議 構成員・臨時構成員

◎: 座長

### [構成員]

秋田喜代美	学習院大学教授
荒瀬 克己	独立行政法人教職員支援機構理事長
佐藤 博樹	中央大学大学院教授
◎清家 篤	日本赤十字社社長
宮本みち子	放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授

### [臨時構成員]

青木康太郎	國學院大學准教授、独立行政法人国立青少年教育振興機構客員研究員
上鹿渡和宏	早稲田大学教授、同大学社会的養育研究所所長、 児童精神科医
菅野 祐太	認定NPO法人カタリバ、大槌町教育専門官
北川 聡子	社会福祉法人麦の子会理事長・総合施設長
櫻井 彩乃	Torch for Girls代表、#男女共同参画ってなんですか代表
田中れいか	一般社団法人ゆめさぼ代表理事
谷口 仁史	認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事
土肥 潤也	NPO法人わかものまちなち事務局長
中島かおり	NPO法人ピッコラーレ代表理事
中室 牧子	慶應義塾大学教授
堀江 敦子	スリール株式会社代表取締役
松田 妙子	NPO法人せたがや子育てネット代表理事
山口慎太郎	東京大学大学院教授
吉村 隆之	鹿児島大学准教授、鹿児島県スクールカウンセラー
李 炯植	NPO法人Learning for All 代表理事
渡邊 正樹	東京学芸大学教職大学院教授

(敬称略)